

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さいたま市南区南浦和マンション	階数	地上6F
建設地	さいたま市南区南浦和三丁目875-1,-11	構造	RC造 一部RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	4人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,856時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2024年3月7日
敷地面積	813 m <sup>2</sup>	作成者	202●年●月●日
建築面積	485 m <sup>2</sup>	確認日	〇〇〇
延床面積	2,090 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.5

3 設計上の配慮事項		
総合	自然と安心に包まれた未来に向けて知(智)を育む暮らしを目指し各環境に配慮した計画に務めた	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・界床の遮音性能をLr-50相当としている ・カーテンと庇を組合せ、グレアを制御している ・給気口は汚染源のない方向かつ、排気口と異なる方向又は3m以上話して設置している。	躯体材料の耐用年数は等級3相当を取得	・全体を通して標準レベルになるよう努めた
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・建物全体のBMIが0.87 ・断熱性能等級4を取得	・検討したが、予算等の都合により今回は見送ることにした	・自転車・自動車駐車スペースを確保し、交通負荷を抑制している

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
 (仮称)さいたま市南区南浦和マンション分譲PJ 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>2.0</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>1.8</b>	1.00	<b>2.0</b>
1.1 室内騒音レベル		居室dB(A)40				<b>3.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>2.6</b>	0.50	
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能							-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr-50相当					-	<b>1.0</b>	0.20	
1.3 吸音							-		-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.0</b>	0.35	<b>1.5</b>	1.00	<b>1.4</b>
2.1 室温制御						<b>1.0</b>	0.50	<b>2.1</b>	0.50	
1 室温						<b>1.0</b>	0.63	<b>1.0</b>	0.63	
2 外皮性能		断熱性能等級4相当				<b>1.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	0.38	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.0</b>	0.25	<b>2.0</b>	1.00	<b>2.0</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30	<b>2.6</b>	0.30	
1 昼光率		南・東面の両面に窓がある				<b>1.0</b>	0.60	<b>1.0</b>	0.50	
2 方位別開口							-	<b>5.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御						<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>1.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>1.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>2.8</b>	0.25	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用				<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>1.0</b>	0.40	<b>1.6</b>	0.38	
1 換気量		居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保				<b>1.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能		給気口位置を汚染源のない方向かつ、排気口と異なる方向又は3m					-	<b>1.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>1.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性							-		-	
2 高度情報通信設備対応							-	<b>3.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観							-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース							-		-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.7</b>	0.30	-	-	<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		コンクリートの等級3相当				<b>3.4</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>5.0</b>	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>1.0</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						<b>1.0</b>	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						<b>1.0</b>	0.20		-	
3 電気設備						<b>1.0</b>	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						<b>1.0</b>	0.20		-	
5 通信・情報設備						<b>1.0</b>	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	<b>3.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	<b>3.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00		-	
1	空調配管の更新性		<b>3.0</b>	0.20		-	
2	給排水管の更新性		<b>3.0</b>	0.20		-	
3	電気配線の更新性		<b>3.0</b>	0.10		-	
4	通信配線の更新性		<b>3.0</b>	0.10		-	
5	設備機器の更新性		<b>3.0</b>	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		<b>3.0</b>	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱性能等級4相当	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.87	<b>4.6</b>	0.50	-	-	<b>4.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減			<b>2.0</b>	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			<b>3.0</b>	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	<b>3.0</b>	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	<b>1.0</b>	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			<b>3.0</b>	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等	<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>1.5</b>	0.33	-	-	<b>1.5</b>
2.1 大気汚染防止			<b>1.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>1.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車・駐輪スペース、導入路の配慮	<b>4.0</b>	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2	振動		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		<b>3.0</b>	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-	